

JAPAN NOW

観光情報協会

- NON - Profit Organization JAPAN NOW TOURISM INFORMATION ASSOCIATION

東京都知事が認証した「都市・環境・観光NPO」が発信する隔月刊情報紙

第44号

発行日2006年11月25日

Contents

観光立国フォーラム in 札幌	1
フォーラムでの三氏の講演内容	2
リニアカー試乗記（白澤副理事長）	3
霞が関情報（志村・経済産業省参事官）	4
観光人国記（札幌市長、鈴の音女将）	5
JN協会5年の歩み ①	6
JN協会5年の歩み ②、中間決算	7
立教支部（留学生との交流）、岸朝子さん	8
倶知安の外人カリスマ、COLUMUN	9
美味しい話、道の駅	10
2冊の本、あめりか通信	11
気象の話、会員名簿	12

巻頭言

2回目の札幌フォーラムは、大盛況 航空、道州制、農業と観光で講演

350人にも上る参加者で、会場は満員となった。

2006年11月9日（木）午後2時から、札幌市のライフォート札幌で開かれた「第2回・21世紀は大北海道圏の時代（観光立国フォーラム in 札幌）」（JAPAN NOW観光情報協会、北海道観光連盟共催、北海道新聞社後援）は、突然の雨にもかかわらず、昨年を上回る盛況だった。

フォーラムは定刻、白澤照雄・JN協会事務局長の司会でスタート。まずJN協会の松尾道彦理事長が、来賓と講師を紹介し謝辞を述べたあと「駒沢苫小牧高校の活躍、日本ハム・ファイターズの日本一達成、7月に開かれた初の日中韓3国観光大臣会議、来年5月に釧路市で開かれる全国港湾大会と、まさに“21世紀は北海道の時代、と確信している」と開会の挨拶。

（写真は、講演会場の模様）

続いて、坂本眞一JN協会北海道支部長が、北海道の良さを強調した（3面に内容紹介）。



建設後50年経ち、お化粧直しされた札幌テレビ塔。イルミネーションが改造され、いっそう鮮やかに夜空を彩るようになった。
毎年、大通り公園で行われる「札幌雪祭り」に、今年は改装された、このテレビ塔が華やかさを演出することだろう。

このあと、嵐田昇・北海道副知事、上田文雄・札幌市長、江口稔一・国土交通省北海道運輸局長および南山英雄・北海道経済連合会会長が、こもごも歓迎の挨拶。なかでも上田市長は、札幌新名物の『札幌いちごタルト』誕生のいきさつなど、札幌PRに熱弁をふるった。

武部・前自民党幹事長ら3氏から祝電

武部勤・前自民党幹事長、藤野公孝・国土交通省大臣政務官、飯島ゆかり衆院議員の祝電が、白澤事務局長によって全文披露された。

午後3時前、本題の講演会に移り、国土交通省の鈴木久泰航空局長、総務省の小川康則理事官、農林中金総合研究所の太多和巖社長が、次々と壇上に立った（詳細は2面に）。

懇談会も和やかに

午後5時半、講師陣、主催者側を交え懇談会。共催者である道観連の我孫子会長の挨拶と乾杯の音頭で、1時間余り名刺交換や懇談が続いた。

「国際港湾都市・横浜の魅力を探ろう」

JAPAN NOW観光情報協会は11月28日午後3時から横浜市の「横浜ロイヤルパークホテル」で「国際港湾都市・横浜の魅力を探ろう」（観光立国フォーラム in 横浜）を開く。午後1時から、「郷土発展振興会」の講演会。

新千歳空港の国際線対応を大幅改善

国土交通省航空局長・鈴木久泰氏



羽田空港の拡張事業は2009年末に供用でき、現在一時間あたり30便の発着が40便に増える。一方で、成田空港は、2009年度末に能力が10%拡大する。これによって、国内主体の羽田空港は、近隣諸国との便数が増やせ、成田を補完する国際空港へ。

新千歳空港は、2009年度までに国際旅客ターミナルを整備し、現在ピーク時に200人しかいない入国処理能力が、530人対応と大幅な能力アップとなる。

今年7月、北海道で開かれた初の日中韓観光担当大臣会議で、国ベースの交流人口を現在の年間1200万人から、2010年には1700万人に増やすことで合意した。北海道も外国人観光客が増えているが、空港施設の整備を機に、臨時チャーター便も増やせるし定期航路も新設可能。これを機に、外国人来道者を大きく増やすよう地元の努力を期待したい。

貨物輸送も期待できる。省内で「キュウタイ（久泰）の貨物3原則」という私の名をもじった話をしている。人は往復するが、貨物は片道が多い、貨物は喋らない、先方から歩いてこない、ということで、このことを理解し対応すれば、ビジネスチャンスはいくらでもある。新千歳―羽田間では貨物輸送が増えているが、新千歳には住民の反対で深夜の発着規制があって、貨物輸送にマイナス要因となっている。北海道の新鮮な農水産物を、全国に送り出すのは、こうした規制が障害になる。深夜規制の緩和・撤廃に向けて、地元で大いに論議してほしい。

道州制で先行する北海道

総務省行政課理事官・小川康則氏

安倍内閣ではじめて道州制担当大臣ができ、佐田玄一郎さんが就任した。道州制実現に向け、本格的に動き出したのである。

北海道は昨年2月、自民党に『北海道道州制検討小委員会』ができ先行している。

そこでの議論等を元に、今年5月「道州制特別区域法案」が国会に出された。実質的には北海道が対象であり、来年4月に施行される見通し。

地元のことは、自分たちが決める、ということが原則となる。一つ例を挙げよう。高齢者が使う杖は先端にゴムをつけることになっている。しかし冬場の北海道では、滑りやすいので、ゴムではなくスパイクが適当。ところが、これは国の補助の対象には



なっていない。こんな基準も、霞が関（国）で決めるのではなく、地方で決めればいい。

観光面でも同じだ。幸い北海道は、すでに“道州制が実現している”。さらに今度の法改正などで、道の権限は拡大し、海外客誘致などでも思い切った手が打てるようになるはずだ。

国の出先機関との関係、市町村との関係などで、行政のいっそうのスリム化は避けられないだろう。地方テレビ局、高校野球の甲子園大会など、長い間に根付いてきた都道府県単位での機関、出来事など今後どう調整していくか、難しい問題は残る。

道州制問題では、北海道が道庁中心に先行しているが、道民の皆さんも大いに論議をして、ぜひ模範答案が出ることを期待したい。

観光の大きな要素は「食」

農林中金総合研究所社長・大多和巖氏

日本の食糧事情は、年を追って自給率が下がり、今は40%そこそこ。フランスの130%、アメリカの119%とは比較にならないが、先進諸国では日本の自給率は、極端に低い。これは、簡単に言えば「米を食べなくなり、肉を多く摂るようになった」からだ。肉を食べることで飼料用の穀物輸入が急増したことが大きい。

こうした中で、北海道は例外的な“農業大国”。耕地面積は、全国の4分の1を占めている一方、農家戸数は2.1%なので、農家1戸当たりの耕地面積は全国平均の15.2倍にもなる。かつて不味いといわれた北海道のコメも、最近は『おぼろづき』のような美味しいコメができるようになった。しかも、大規模農家が多いので、コメの生産費は全国平均の4分の3と国内競争力は抜群。漁業も、ほっけ、こんぶ、帆立貝で独占的な比重を占めているのをはじめ、全国の21.9%という高いウエイトを持つ。

ところで、旅の思い出の大きな部分を「食」が占めており、期待に反すると、ガッカリする。多くの人が、北海道の「食」に大きな思い入れがあることは、東京などで開かれる「北海道展」が、いつも大盛況になることで、お分かりだろう。

生産者は、高く売りたいから大消費地へ出荷するのは、やむを得ない面もあるが、地元に残し観光客に提供するようにしないとソッポを向かれることになりかねない。カニ食べ放題パック旅行などで北海道にきた人から「スカスカのカニだった」と失望感を聞くこともあるが、これは良くない。儲け主義の旅行業者にはムリだろうが、地元の人々が工夫しなくてははいけない。

広く美しい自然と、豊富な食を、もっと生かした観光のあり方を、皆さんで考えていただきたい。



「飛ぶ鉄道」リニアの安全・定時・快適性を体感

すでに55万キロ走り実用化を実証、15年後には営業運転も！

時速500キロに感嘆の声しきり

JAPAN NOW観光情報協会は、JR東海のご好意により10月27日、山梨県都留市の山梨リニア実験センターで第3回リニア試乗会を行い、団体会員を中心に約30名が参加した。時速500キロという世界に誇る「飛ぶ鉄道」の安全性・定時性・快適性の臨場感を体験し、空気を切り裂きながら疾走するリニアに「素晴らしい」と感嘆の声が上がった。

今回の試乗会は、北海道や北陸の団体会員の強い要望で実施され、松尾理事長と須田副理事長（JR東海相談役）、白国リニア開発本部長らが参加。かつてJR東海の社長、会長を務め



時速500キロで走行中のリニア
センター屋上から杉行夫氏撮影

リニアの実証試験に取り組んだ須田相談役と実験センターの遠藤所長から、10センチ浮上して走る超電導型リニアの実用化テストの現状や将来性について説明があった。午前11時20分、リニア実験線（18.4キロ、複線）で4両編成の車両に乗り込んだ。

やがて車両はU字型のガイドウェイにそって、東京方面へゆっくりとゴムタイヤによる粘着走行を始める。時速約150キロに達したところ車両の連接台車にある超電導コイルがマイナス269度に冷却されて強い磁界が発生し、ガイドウェイの左右両壁に敷き詰められた電磁コイルから浮上・推進・案内力を受けて10センチの浮上走行となり、あっという間に時速300キロから500キロの超高速運転となった。

コンピューター制御による無人運転だが、左右への揺れや、振動も少なく室内は快適そのもの。車両はトンネル内で発生する圧縮波や「トンネルドン」という破裂音、空気圧の急変に伴う「耳ツン現象」を抑えるため航空機並みの気密性を取り入れ、乗り心地は快適。11時45分に終了。

このあと松尾理事長らを囲んで懇談会が開かれ、須田氏は「超電導型リニアは東海道新幹線のバイパスとして計画された。リニアの安全は確保されている。近く実験線24キロの延伸工事を始める計画で、約3500億円が投入される」と述べ、リニア中央新幹線の実現に意欲を示した。白国氏は「走行距離は延べ55万キロに達し、最高時速581キロを記録した。ピーク時の輸送力は片道1万人を想定しており、安全性、定時性の高いシステムです。最近ではマイナス273度の高温による超電導磁石での走行テストに取り組んでいる」と実験結果を評価した。

ドイツのような事故は起きない！

ドイツの常電導型リニア（1センチ浮上）「トランスラピッド」が9月下旬、同国内の実験線で軌道上の作業車と衝突し、リニアの試乗客23人が死亡、10人が重軽傷を負った。作業車を確認しないまま、リニアを運行したのが原因らしい。JR東海の山梨実験線では事前にタイヤで自走する確認車を走らせ軌道上に障害物がないことを確認したあとリニアを車庫から走行させるので、安全性には問題はないという。

JR東海はリニア中央新幹線の実用化に向けて東京、名古屋、大阪の都市部で地下40m以下の大深度地下を走行する場合の環境面での影響調査を始めており、国土交通省はすでに「超電導型リニアの実用化は技術的に可能」とのお墨付きを出して、実験費用も継続的に計上しており、条件が整ってきた。

文部科学省が最近行った科学者2700人による科学技術の未来予測では「時速500キロのリニアカーの商業運転は15年後に実現する」という。

（JN協会事務局長 白澤照雄）



リニアモーターカー試乗会。北海道、九州、北陸からも多数参加し、総勢30人近く。

北海道魅力の7つのポイント

坂本・JN協会北海道支部長



ずっと暗い話が続いていた北海道だが、駒沢苫小牧、日ハム、旭山動物園の活況、知床の世界遺産登録、美味しくなったコメ、新しい菓子の開発など盛り上がる動きが出てきた。ある知人から「北海道7つのポイント」を指摘された。紹介したい。

①広い土地 ②素晴らしい自然と食 ③ロシア、アメリカ、アジアと等距離にある戦略的な立地条件 ④豊富な水資源 ⑤札幌という魅力ある都市 ⑥北海道の人たちの“移民国家的な”魅力 ⑦北海道ブランドがもつ人を惹きつける魅力――。

これを踏まえて、他地域との差別化を図って行こう。いまは「夜明けを待つ心境」である。

（「観光立国フォーラムin札幌」での挨拶から）

東京 震が関発の最新情報 国土交通省・総務省・財務省

中小企業振興の観点で観光に取り組む 志村務・経済産業省商務情報政策局参事官



一経済産業省として観光にどのような体制で取り組んでいるのでしょうか？

経済産業省としては商務情報政策局が担当しています。私の名刺には、観光・集客チームの参事官という肩書きが書かれています。

地域の活性化のために観光客を増やすことが仕事です。中小企業庁とも連絡をとりながら取り組んでいます。06年6月に二階大臣の時、新経済成長戦略大綱を決めて重点6分野を決めました。

その中に「観光・集客」を入れてあります。この観光・集客分野において必要なことは二つあります。一つは需要拡大のための施策であり、あと一つは競争力・生産性の向上です。

一具体的に何をしていますか？

サービス産業創出支援事業という名前で集客交流を図っています。例えば栃木県宇都宮市では「宇都宮軽音楽文化振興コンソーシアム」ということでジャズフェスティバルと一般の観光客を融合した都市観光振興を図ります。

和歌山県では和歌山観光医療産業創造グループが観光資源を観光医療サービスとして再構築しています。このように全国から125件の応募の中から18件選んで1～2億円の補助をしています。

一人材育成事業にも06年度に6億6千万円使ってますね。

人を集めるには人材を育成する必要があります。そのために「集客交流経営人材育成事業運営委員会」（座長・松田昌士 J R 東日本相談役）を作り、人材育成のための教育プログラムの開発を進めています。

特に事業で必要な人材と地域経営で必要な人材を分けています。このほか、観光・集客サービスの成功要因分析も06年2月から始め、06年度は「観光・集客交流拡大要因研究会」（座長・安島博幸立教大教授）を続けています。この二つの委員会や研究会での結果を観光に生かしていきたいと思います。

一経済産業省として小泉前総理が打ち出したV J C（ビジット・ジャパン・キャンペーン）にどのように協力していますか？

聞きなれない言葉ですが、M I C Eを通じた観光交流の拡大に取り組んでいます。

Mはミーティングでセミナーや会議、Iはインセンティブといわれ企業の表彰や研修旅行、Cはコンベンションで国際会議や学会、Eはイベントでスポーツや展示会です。

安倍総理も国会の所信表明演説で「この5年以内に主要な国際会議の開催件数を5割以上伸ばしてアジアでの最大の開催国を目指す」と言っています。経済産業省としても努力しなくてはなりません。

志村務（しむら・つとむ）氏 [プロフィール]

千葉県出身。1985年東京大学法学部卒業。運輸省（現国土交通省）入省。運輸政策局観光部旅行振興課補佐官、在大韓民国日本大使館一等書記官。自動車交通局企画官。関東運輸局企画観光部長を経て現職。44歳。

新潟が日本海側初の政令指定市へ 浜松は来年4月に 岡山、熊本も実現目指す

政府は10月下旬の閣議で、来年4月に新潟市と浜松市を政令指定都市とすることを決めた。

新潟、浜松両市は、政府が進めた市町村合併によって人口70万人を超え、政府が条件としている指定市の要件を満たした。指定市になると県から113の事務、権限が移譲され市政運営の幅が大きくなり、例えば教員を独自に採用できたり、道路管理の裁量権も増える。

篠田新潟市長は、2004年5月に行った J N 協会のインタビューの中で「周辺市町村との合併により、新潟市を日本海側での初の政令指定都市にしたい」と述べており、その夢が実現した。

新潟、浜松の指定市誕生により国内の指定市は17となるが、このほかの岡山市、熊本市なども指定市移行を目指している。

J N 会員の山出氏、金沢市長に5選 歴史文化を生かした街づくり訴え



J N 協会発足時からの会員である山出保氏が、11月19日行われた金沢市長選挙で、二人の対立候補を大差で破り、市長5期目に入った。

山出市長は、金沢外環状線の建設や金沢駅前整備、21世紀美術館の建設、北陸新幹線の早期建設推進などを進めてきたが、今回の市長選では「歴史文化を生かした街づくり」を訴えていた。まさに、観光立国を推進する J N 協会の会員らしい訴えである。

観・光・人・国・記

「文化+観光」がコンセプト
上田札幌市長が目指す市民参加の街づくり

1972年3月中央大学法学部 卒業
1978年4月札幌弁護士会登録
1994年4月札幌弁護士会副会長
2003年6月札幌市長再選挙で当選
44年ぶりの民間出身市長。
(因みに日ハムの日本一も44年ぶり)

「どこかちがうの♪この町だけは♪」一石原裕次郎のヒット曲『恋の町札幌』の一節である。北海道の道都・札幌の上田文雄市長は、街づくりのポイントを、このフレーズに置きたいと言う。カラオケの達人で、ご自身が吹き込んだ『ふるさと札幌』というCDを出し、“ススキーノ”という男声合唱団にも参加している上田市長らしい表現である。

その心は **札幌を どこか他と違う文化薫る都市として 国内はむろん世界に売り出したい** ということ。200万人近い大都市・札幌には、年間1300万人を超える観光客が訪れている。これを **万人にしたい そのためには もう一つ特色が必要 それが文化だ**とおっしゃる。その表れの一つが、市長就任後に作った『観光文化局』である。ふつうの都市では、経済局観光部という経済面を重視したセクションが多いが、札幌市のそれには市長の想いが込められているのだ。

札幌には、冬の『さっぽろ雪まつり』、夏の『よさこいソーラン』という大イベントがあり、多くの観光客をひき付けている。とくに冬は、ノルディックスキー世界選手権大会を開催したり、雪を愛でスキーを楽しむ外国人観光客も急増してはいる。しかし旅行シーズンである秋に、二者に匹敵する大きな催しが無い。ここに上田市長は、目をつけた。

そこで、11月を『芸術文化月間』と位置付け、昨年から様々なイベントを複合的に開催する『さっぽろアートステージ』をスタートさせた。たとえば、このイベントの一環である『札幌演劇祭』は、昨年は1館で始まったが、今年は8館、114の出し物に拡大 **毎日どこかで 市民の演劇を見ることが出来る** と言う。『アートステージ』は、札幌を新たな芸術文化の街へと変えていくイベントだ。

これも文化といえるが、上田市長は11月25日『札幌、ちょっといい話』という本を出版した。その中で、彫刻家のイサム・ノグチと指揮者バーンスタインという世界的な巨匠にまつわる話を書いている。イサム・ノグチは、札幌の新名所となっている『モエレ沼公園』を設計した。バーンスタインは、世界中から若手音楽家を札幌に集めて育てるパシフィック・ミュージック・フェスティバル（PMF）を創立し、すでに2000人を超える音楽家を送りだしてい

る **この音楽家の方 に札幌観光大使になっていた** だと上田市長。

お二人とも、スタート直後に亡くなられ、まさに“遺産”を札幌に残された、ということである。

こうした文化的遺産を受け継ぎ 札幌を住みたくない街 行ってみない街として磨きをかけない という上田市長の、今後を見守りたい。（加納）

札幌チヨン族の健康管理にまで気を配る
季節料亭『鈴の音』の女将・渡辺鈴代さん

“心尽寛刻”－これが私のモットーです。こう語るのは、札幌市の季節料亭『鈴の音（ね）』の女将・渡辺鈴代さん。「心を尽くして、刻（時）を寛ぐ」と漢文読みするのだそう。



支社長や支店長ら、単身赴任が多い札幌。こうした札幌チヨン族に、奥さんに成り代わるかのように「お帰りのさい」と、迎えるのだという。そうした雰囲気をつくり出すために、最近、カウンター席も靴を脱いで寛げるように改装した。

地場の一流企業社長秘書を辞め、この道に入ったのが16年前。最初は、札幌の繁華街・すすきのに店を構えたが、8年前に現在地に移った。中島公園付近は、かつては料亭が立ち並んでいて、そこに『黒澤』という名物女将がいる料亭があった。その女将から「歳なので引退したい。貴女やって」と言われて、居抜きで『鈴の音』を開いたのだという。

3階建ての一軒家、1階がカウンターで2、3階にいくつかの個室がある。24人入れる、こじんまりした料亭である。

和食主体だが、特長は「お客の好みに合わせて何でも作る」板前さんの腕と、鈴代女将の記憶力。単身赴任者には野菜を多めに、とか、持病がある人には、そのように対応するとか「一度お見えになったお客様のお好み、出してはいけないものはなにか、全部頭に叩き込んでいます。二度目のお客様には前と同じ献立は出しません」と、鈴代さん。常連さんが多い訳が、そのあたりにあるのだろう。

「そんなに気を使うと疲れませんか」と聞くと、「車が大好きで、時々すっ飛ばして夜景を見に行きます。それが、息抜きです」。11月下旬には新装開店の運び。

女将さんというよりは、ママといった雰囲気を持つ鈴代さん、飛ばしすぎて危ない目に遭わないように。そして、札幌単身族の、いいママさん（奥様）であり続けて下さい。（加納）

『鈴の音』（札幌市中央区南九条西
4-1-14、電話011-552-2078）

JN協会5年の歩み ①

2001年4月発足したJAPAN NOW観光情報協会は、6年目に入り順調に活動を展開しています。

JN協会の活動目的

21世紀は世界的な観光交流が拡大し、「観光の世紀」と言われています。政府も官民一体で振興に取り組んでいます。JAPAN NOW観光情報協会は平成13年4月に「都市再生・観光振興・環境保全」を目的としたNPO法人として石原・東京都知事から認証され、活動しています。日本が観光立国として発展するためには、従来の観光振興だけでは限界があり都市の再生、活性化による地域経済の振興や環境保全が必要です。

当協会はこうした理念のもと、市民レベルの「第三の社会セクター」(NPO)の立場から既存の「第一の社会セクター」(国、自治体など公的機関)や観光、鉄道、航空、電力、ゼネコンなどの「第二の社会セクター」(営利法人)が発信する都市再生・観光・環境保全情報の補完に取り組み「賢い旅行者・消費者」の育成に務め、国や地方自治体、経済団体への提言も行い、成果をあげています。

JN支部の設立

- ・新宿支部(2001年4月、片山文彦・花園神社宮司が支部長)
- ・北陸支部(2002年10月、水野卓哉・北陸鉄道会長が支部長)
- ・立教支部(2003年12月、支部長は学生会員の持ち回り)
- ・九州支部(2004年3月、長尾亜夫・西日本鉄道社長が支部長)
- ・中部支部(2004年7月、須田寛・JR東海会長＝当時＝が支部長)
- ・神戸支部(2005年3月、岩田弘三・神戸商工会議所副会頭が支部長)
- ・北海道支部(2005年11月、JR北海道会長の坂本眞一氏が支部長)
- ・四国支部(2006年4月14日、JR四国会長の梅原利之氏が支部長)



写真は発足メンバー

JN協会の活動実績(講演会)

- 第1回:「国際観光を楽しむ」平成13年10月22日(月) 基調講演:向山秀昭氏(国際観光振興会長)
- 第2回:「都市の活性化と国際観光」平成14年1月31日(木) 講演者:カトリヌ・オーデン氏(フランス政府観光局長ら)
- 第3回:「都市の交流と国際観光」平成14年5月21日(火) 講演者:羽生次郎氏(国土交通省国土交通審議官)
- 第4回:「北陸新幹線と地域振興」平成14年10月4日(金) 於:金沢市 講演者:松尾道彦氏(鉄道建設公団総裁、当協会副理事長)
- 第5回:「内外経済事情」平成14年11月21日(木) 講演者:渡辺 修氏(日本貿易振興会理事長)
- 第6回:「激動する航空業界の現状と今後」平成15年5月30日(木) 講演者:野村吉三郎氏(全日本空輸会長)
- 第7回:「江戸文化と大道芸」平成15年 8月10日(日) 於:新宿・花園神社 シンポジウムのパネリスト: 片山同社宮司ら4名
- 第8回:「観光立国と箱根の魅力」平成15年9月4日(木) 基調講演者:中村徹氏(日本観光協会会長)。
討論者:山口昇士(箱根町長)、金澤博(国土交通省観光部長)、福川伸次(電通顧問)の各氏。
- 第9回:「九州新幹線の開業に向けて」平成16年3月1日(月) 於:ホテル日航福岡 講演者:高山博文氏ら
- 第10回:「日本経済の再生と観光立国」平成16年5月27日(木) 講演者:福川伸次氏(元通産事務次官)
- 第11回:「中部国際空港の開港と観光交流」および「愛・地球博の成功を目指して」
平成16年7月15日(木) 於:名古屋市 講演者:平野幸久氏(中部国際空港会社社長)、中村利雄氏(万博事務総長)
- 第12回:「観光立国と国の安全」平成16年12月16日(木) 講演者:国松孝次氏(元警察庁長官、前スイス大使)
- 第13回:「21世紀は名古屋圏の時代」平成17年1月25日(火) 於:名古屋市・銀行協会ホール
基調講演:福川伸次氏
パネラー:奥野信宏、安原敬裕、須田寛、水尾衣里の各氏
- 第14回:「神戸空港開港に当たって」平成17年3月17日(木) 講演者:茨木康男・大阪航空局長、山本朋廣・神戸市港総局参与、神田勉・同市企画調整局参与
- 第15回:「サッカーと観光立国」平成17年5月24日 講演者:鈴木昌・Jリーグチェアマン(JN通常会員総会のあと) 於:ホテルKKR
- 第16回:「大九州圏観光フォーラム2005」平成17年9月21日(水)。福岡市の西鉄グランドホテルで。渡辺修・ジェトロ理事長ら5人講師
- 第17回:「21世紀は大北海道圏の時代」平成17年11月08日(火)。講師:電通顧問の福川伸次氏(元通産事務次官)、
照明デザイナーの石井幹子氏、国土交通省総合観光政策審議官の柴田耕介氏ら4人。
- 第18回:「大四国圏の活性化と将来展望」平成18年4月14日(金)。講師:機械産業記念事業財団会長の福川伸次氏ら3人。
- 第19回:「地球規模の観光大交流時代ですよ」平成18年5月19日、第5回通常会員総会記念講演会。講師は岩村・前国土交通事務次官マリ・クリスティーズさん。
- 第20回:「魅力溢れる大中部圏の現状と将来」平成18年7月14日(金)。講師は須田寛・JR東海相談役、金澤博・鉄道運輸機構理事(新幹線担当) 200人参加。翌15日は「かゝり市」で、北陸支部主催の講演会(講師:松尾理事長ら4人)120人参加
- 第21回:「第2回・21世紀は大北海道圏の時代」平成18年11月9日。350名が参加。札幌市で。講師は、鈴木久泰・国土交通省航空局長、小川康則・総務省行政課理事官、大多和巖・農林中金総合研究所社長
- 第22回:「食育・動育・心育による町おこし」「港・横浜と観光」平成18年11月28日(火)＝予定。講師は、中尾・国交省港湾局長ら。

JN協会5年の歩み②

JN協会の活動実績（見学会）

- 第1回：山梨県都留市の山梨リニア実験センター 平成13年11月8日（木）。JRマグレブ・リニアカーの試乗会。丹羽理事長以下15名が参加、時速450キロを体験。
- 第2回：東京電力柏崎刈羽原発など。平成14年8月24日（土）、25日（日）参加者25名。協力：原子力発電技術機構
- 第3回：石川県・能登空港 平成15年7月8日（火）7月7日開港した能登空港見学。丹羽理事長、水野・北陸支部長ら10名が参加。
- 第4回：都留市リニア実験センター 平成15年10月8日（水）松尾副理事長や電力、ゼネコン、鉄道などの団体会員ら30名参加。時速500キロを体験。
- 第5回：横浜市みなとみらい線 平成16年1月21日（水）2月1日開業を前に、丹羽理事長、松尾副理事長ら30名が参加。
- 第6回：九州新幹線（鹿児島中央駅～新八代駅） 平成16年3月1日（月）3月13日の開業を前に、丹羽理事長、松尾副理事長ら20名が試乗会に参加。
- 第7回：開港前の中部国際空港 平成16年7月15日（木）。松尾理事長ら約20名が参加。
- 第8回：建設が進む神戸空港 平成17年3月17日、松尾理事長ら20名が参加。
- 第9回：開港前の神戸空港 平成17年3月17日 松尾理事長以下約20人。
- 第10回：開業前の「つくばエクスプレス」試乗会。平成17年7月27日、11名参加。
- 第11回：3回目のリニア試乗会。都留市リニア実験センター 平成18年10月27日。須田寛JR東海相談役が講師となり、松尾理事長らが参加。



時速500キロで走るリニアモーターカー（第一回試乗会）－2001年11月



開港前の中部空港管制塔の中で（2004年7月）

JN協会の活動実績（研究会）

国土交通、旅行、エネルギー問題、都市再生、環境の5研究会を開設。副理事長を座長とし研究活動を実施。

- (1)「観光の価値・評価」の研究会 2002年1月25日～2002年11月20日まで9回。
 - (2)「旅と危機管理」セミナー 2003～2004年末で9回。最終回は2004年12月16日、国松孝次元警察庁長官を迎え「観光立国と国の安全」という題で、講演。
 - (3)「観光立国セミナー」 2004年～2006年実施中。
- 会員だけでなく、関心のある方の参加を歓迎。いずれも、製本しJN協会に保存。
会員企業、個人会員の閲覧は御自由どうぞ。

JN協会の活動実績（提言）

JN協会は提言も積極的に行っている。平成14年7月リニア中央新幹線の実用化について小泉首相に提言した。丹羽理事長（当時）は、平成15年1月東京駅周辺に「観光総合案内センター」の開設を、平成15年10月には「江戸城再建」を提言し、話題となった。

今後とも研究会活動の成果を踏まえ、積極的に「観光立国」等に関する提言を行う予定である。

JN協会の平成18年度上期（4～9月）決算（案）：単位千円

収入の部		支出の部	
前期繰越	1,596	講演会費	1,853
講演会収入	1,277	JN紙発行費	538
		研究会費	227
		交通費	905
個人会員会費	846	賃借料	806
団体会員会費	3,889	通信費	342
計	4,735	IT費	44
		その他	335
〔下期繰越	2,559〕	計	5,052

注)①前年度繰越金(2006年3月末)は、1,596千円と、黒字を計上している。

②管理費に「人件費」の項目がないのは、理事長以下常駐の事務局員も全員無給ボランティアだから。JN発行費は、取材交通費、インク代、用紙費であり、編集費はゼロ（無給ボランティア）。2006年度上期（4～9月）は6回発行しており、1号当たり9万円弱。取材交通費は、ジパング倶楽部など最低の料金適用。

③交通費は、常勤事務局員（4人）の自宅からの交通費プラス主として都内での取材などの交通費。

以上のように、無給ボランティアと手づくりでの情報紙発行など、きわめて安上がりの体制となっている。

JN協会は随時、経理内容を公開することとした。経理の「透明性と情報開示」がNPO法人の大きな課題の一つであるとの指摘があり、会員の皆様の会費をもとに運営しているからには、公開が当然のことだからである。



小人数だが、楽しかった一日

立教支部と留学生の交流

立教大学1年 安達 薫

10月22日日曜日、私たちNuggets of Hospitalityは、東京タワーと、新木場にある夢の島熱帯植物園に行ってきました。今回のツアーはゲストは2人、ホスト側の私たちが4人という小さなグループでの行動だったため、融通のきくツアーになりました。

ハロウィーンに近い時期に行われたということもあり、「ハロウィーンらしいツアーにしたい!」ということで、夢の島熱帯植物園を選びました。ここでは、10月中はハロウィーン期間と称して、屋外におばけかぼちゃを設置（というか広場にただごろごろとあるだけ）しているのです。な



かなかハロウィーンに関連するツアーの場所が見つからなかったなか、唯一の道でした。

「おばけかぼちゃだけでは物足りない」と思った私たちは、「ハロウィーン

にちなんで、手作りのお菓子を持参し、公園でバドミントンやゲームをしながらみんなで食べよう」という企画もツアーの予定に組みこみました。

当日その公園では、ゲストの一人はずっと電話をしているし、もうひとは勝手にビールを買ってきて飲んでいてという始末で、最初はどうなることやらと思っていました。けれども、ゲストの2人はもちろん、ホストの私たちも手作りのお菓子に感動したり、バドミントンに熱中したりととても楽しい時を過ごしました。

その後、熱帯植物園に入りました。夢の島（＝埋立地）に建つこの植物園は、ごみを燃やす時の熱を使って、「熱帯」の状態を作っているのです。園内の広場では、おばけかぼちゃと戯れました。途中で雨が降ってきたのですが、それでもずっとかぼちゃで遊んだり、写真を撮ったりしているほどみんな気に入ってくれました。

次に、メインの東京タワーへ向かいました。浜松町駅から歩いてタワーに向かっている途中、増上寺の前で突然ゲストの2人が「入りたい」と言い出しました。予定のルートとは違ったのですが、暗い中に入っていくと、なんとそこには、東京タワーとお寺がちょうどいい具合に見えるベストポジションがあったのです。

です。残念ながら雨だったものの、とてもきれいなイルミネーションと風情あるお寺が一度に見ることができました。

そして、いよいよ東京タワーに昇ります。「せっかく東京タワーにいるのだから、特別展望台まで昇りたい!」というゲストの要望に応じて、一番上の展望デッキまで昇りました。天気はあいにくの雨でしたが、夜景は最高にきれいでした。人数が少なかったから、ゆっくりと時間をとって夜景を観ることができました。

最後に、お腹が空いた私たちは、タワーの中のレストランに入り、ゲスト2人はラーメンを、私たち日本人はピザやハンバーガーを食べるという不思議な夕食となりました。

今回は人数が少なかったのですが、その分ゲストの要望にも応えてあげることができました。アットホームで和気あいあいの楽しいツアーでした。

「食」は観光の大きな要素

観光立国セミナーで岸朝子さん語る

著名な料理記者として知られる岸朝子さんが、11月21日開かれたJN協会の「観光立国セミナー」に登場。



まず、観光と「食」の関係について「旅行の楽しみは、美しい自然に接すること、色々な人に会えること、それと各地の特色を生かした食べ物でしょう」「どこへ行っても刺身が出るような、画一的な食事はよろしくありません。量も多いしネ。泊食分離といいます。希望によって食事は街のレストランですれば、途中で土産も買うでしょうし、街の活性化に繋がると思います」など、旅と食のあり方について提案。

また、アメリカ旅行でよくみた太りすぎた人たちの例を挙げ「貧富の差が、体型に現われています」と“新説”を披露。「フィラデルフィアにある『MORIMOTO』は、料理の鉄人にも出た方ですが、ここにはすっきりした体型のお客が多い。お安くはありませんが、日本料理を食べているからなのです。一方、貧乏な人は脂肪分が多い安い食事を摂るので、肥満体になるのです」とか。

健康と食が大いに関係があることは、アメリカの例でも分かるが、岸さんは、こんな提案もしている。「例えば糖尿病対策の柱は、食。北海道の旅館の人たちとも話しているのですが、2週間宿泊してもらい、決めた献立を出してもらおう。すると目に見えて体質が改善されます」「そのメニューを持ち帰り、自宅でも続けるのです。このやり方は色々な病気にも適用できるのです」と。

外国人観光客誘致にも役立ちそうな話と思う。

外人「観光カリスマ」に会う 北海道倶知安の地価を上げた？男 杉 行夫（JN協会事務局次長）

手元に1963年の時刻表がある。函館本線の狩太駅（当時）が、今はニセコ駅になっている。倶知安の一つ函館寄りだ。

本年11月、札幌でのJN協会フォーラムに参加した帰途、倶知安を訪れた。今年9月の地価調査で、倶知安町山田地区の住宅地の上昇率が33.3%を記録した。東京都港区南青山の変動率28.8%を抜き全国一位である。この原因の一つと考えられる、いわゆる「観光カリスマ」、オーストラリア人、ロス・フィンドレー氏の基地、ニセコ アドベンチャーセンター（NAC＝写真）を見に行きたかったのである。



フィンドレー氏は、1964年メルボルン生まれ。89年友人の薦めで来日、91年倶知安に移住。そこで日本人女性と結婚。冬はスキーレッスン、夏はログハウスの大工をし、休日に尻別川でカヤックを楽しんでいるうちに、「ニセコを夏も観光客が楽しめる通年リゾートにできないか」と冒険川下り・ラフ

ティングによる観光事業をと95年にNACを設立。10年余を経過した現在、ラフティングをはじめとするアウトドア体験サービスとカフェ、アウトドア関連商品の販売を含め売り上げ年2億円、社員はほとんどが若者で、アルバイトを含め約80人を数えるまでになった。

札幌から羊蹄山をのぞむ中山峠をぬけ、倶知安を南下、道の右側に中山地区に入ると日本離れした住宅地が広がり、売り物件の看板に「FOR SALE」の文字が目につく。リゾート開発業者「泉卿」の看板の先に、緑色をした「NAC」の建物があった。

1階が、OUTDOOR SHOP & CLIMBING WALL、2階がJOJOというカフェになっている。扉を開けて1階に入ると衝立にぶら下がる商品に圧迫された。その先に素手でよじ登るCLIMBING WALLが2階まで吹き抜けてそそり立つ。右脇に建築基準法とは無縁な幅1m未満の洞窟を思わせる階段があり、2階のカフェへ通じる。広々としたカフェは明るい。平日の午後1時過ぎであったが、2～3組の客がおり、ここで遅い昼食を食べた。

1階に降り外に出るとテラスの先に、断面40cm四方、100kgはあろうかという太い柱で階段を組んでいる作業員がいた。作業を写真に撮り一人の人を見ると、インターネット情報で見た、フィンドレー氏その人であった。

写真撮影をお願いすると、撮影に応じてくれた。

（写真は、いずれも杉行夫撮影）



C O L U M N

セキュリティ・チェック

セキュリティー検査は、航空機搭乗の関所ともいえる。いま世界的にテロの脅威が蔓延しているが特に、アメリカではテロ対策に厳しい警戒態勢を敷き、先日もロンドン発航空機のテロ未遂事件もあって、化粧品を含め、水容器の機内持ち込みを認めなかったり、反米国家国連代表の出国に際して厳しい検査を要求して物議を醸したり、些かテロアレルギー・シンドロームの感がある。

以前はこんなことはなかった。66年に戦時下のベトナムへ出かけた時も、またその翌年第三次中東戦争直後で戒厳令下のアラブ諸国へ出かけた時だって、どここの空港でも持ち物検査なんてなかった。

イミグレーションさえ問題なければ簡単に出国できた。その当時大きなザックひとつを肩に担いで旅していたが、その中には自炊用のアルミ製食器類、調理用のナイフ、小シャベル、マッチ、ライター、それにいまでは考えられないことだが、「ラジウス」と称するバーナー、ガソリン満載の缶、携帯燃料等の可燃物等々の危険物をぎっしり詰め込んでいた。乗客がガソリンを機内へ持ち込むのだから、いま考えてみると危険この上ないことではあったが、そんなことも意に介さないほどのんびりした時代だった。実際個人旅客の託送荷物が航空大事故につながったという話も聞かれなかった。

しばらくして東西冷戦が進み、世界中の国際空港でセキュリティ・チェックが実施されるようになった。それにも拘らず、当時ビルマ（現ミャンマー）は、その種の検査を実施しなかった。ビルマの言い分がふるっている。そんな悪い旅行者はいないという信念と、高価な検査機を買う余裕がないというごく当然の理由だった。見かねて遺骨収集に協力してもらった日本政府が検査機をビルマに贈呈した。しかし、その後ビルマを訪れたが、検査は行われなかった。なんと検査機が壊れてしまい、修理代が高いからというものだった。

あんなのんびりした時代と人を疑わない信心深いビルマの人々が懐かしい。（近藤）

お得な情報

「日本で見つけた 世界おいしい物語」

リコス キッチン

料理のお勧めは、デイナーおまかせコース5,250円。苦手な食材を伝え、それを避けてコース料理を組み合わせしてくれる。恵比寿ガーデンプレイスの近くであり、外国人客も多いため、スタッフは英語でメニューを説明している。

このレストランの特徴は、サラダ仕立てのカルパッチョ。魚がみえないほど、野菜が盛りだくさんである。20種類以上の野菜を必ず盛り付ける。

ワインはカリフォルニア産を中心に、ぶどうの品種別にリストアップされている。フランス料理はフランスワイン、イタリア料理にはイタリアワインと相場が決まっているため、カリフォルニアのようにニューワールドと呼ばれるワインには、ここの無国籍料理があうのかもしれない。ワインがグラスで950円からというのは、お手ごろである。

メニューの名称も凝っていて「香ばしく焼いたウナギとサトイモのテリーヌ ヴェンプランとツメのソース」など、説明されないと良くわからないが、好奇心をかきたてるものが多い。

こじんまりしたアットホームなレストランで、個室もある。ランチは11時30分から午後2時30分のラストオーダー。デイナーは午後6時より10時のラストオーダー。月曜が定休日、土、日、祝日にはブランチがあり、2,940円と4,500円の2コース。

住所は渋谷区恵比寿4-23-7、恵比寿駅からは徒歩で10分ほど。電話は03-5791-4649。

(大島 慎子)

日本唯一のホテル客室常備文化情報誌

JAPAN NOW

1985年の創刊以来、内外の多くのお客様にご愛読いただいていた「JAPAN NOW」誌は、2005年度版より日英全文対訳となり、学校教材としてもますます高く評価されています。3月末に出来上がった2006年度版は、マンダリンオリエンタルホテル東京、グランドハイアット東京など、東京を中心に新たに開業したラグジュアリーホテルを含む110館55,000室の客室に常備されます。



日本文化の再発見を通じ新たな観光資源を紹介し、現代日本を代表する執筆者やカメラマンたちによって日本のいまを生き生きと伝えることが、「JAPAN NOW」誌の編集方針です。

2006年度版は、日本人の伝統的な美意識を時間という視点からとらえなおした「ときうつろい」と、現代の日本がいかにしてつくられたかを問い直す「近代の面影」という2つの特集

を中心に構成されています。

1部2000円(送料別)で購入できます。お問い合わせは(株)ジャパン・ナウへ。電話・FAX 03-3536-1751

道の駅「美並」

岐阜県郡上市にある道の駅「美並」は、日本の真ん中に位置し、眼下には日本一の清流長良川が流れる。この川では、魚釣り・ラフティング・カヌーなど自然が満喫できる。

朝市は毎日開催し、新鮮な野菜、採れたての山菜などを手頃な価格で手に入れることができる。



美並村にはヤナ場5ヶ所があり、ここ道の駅でも長良川の鮎を味わえる。他に地元産の小麦を使った「円空うどん」も食べることができる。

お土産は美並村の農産物を使った漬物・佃煮・味噌・こんにゃくがある。道の駅「美並」は国道156号線沿い、営業時間は午前9時～午後6時(トイレ・駐車場・公衆電話は24時間)、休館日は年末年始。

問合せ: TEL0575-79-3980。

また道の駅「美並」の近くには、魅力的な施設がある。美並村は江戸時代の遊行僧「円空」のふるさと言われ、美並ふるさと館(TEL:0575-79-3440)では「円空」の初期から晩年期に彫られた、独創的で力強く素朴な90体あまりの円空仏が展示され、その生涯にふれることができる(小中200円・高校以上400円)。

日本まん真ん中センター(TEL:0575-79-3700)には37.3mの「世界最大級の日時計」モニュメントがある。その高さは村名の「みなみ」のごろ合わせて決定したという。

施設内には500席の多目的ホール、図書館などがある。車で5分走ると、日本まん真ん中温泉・子宝の湯(TEL:0575-73-4126)がある。露天風呂から長良川が望める見晴らしのよい温泉で、素朴でゆったり気分が楽しめる。(大人500円・小人250円)

(JN理事 堤 りり)

【会員募集】

都市の再生、観光振興、環境保全の市民活動に賛同する会員を募集しています。

個人会員(1口5千円)、団体会員(1口5万円)

東京都渋谷区代々木1-58-13小田急代々木ビル3階

JAPANNOW観光情報協会(電話03-5304-9500)へご連絡ください。

会員の投稿を歓迎します

情報紙の充実を目指して!!

観光情報紙2007年新年号への個人、団体会員の投稿を歓迎します(400~500文字程度)。皆様のご意見を、どしどしお寄せ下さい。詳細は事務局まで。

発行は2007年01月20日。締め切りは01月10日。

ジャーナリストが足で稼いだ本 データで世界を知る 2冊を紹介する

JN協会理事で、「COLUMN」の執筆者である近藤節夫氏は、旅行業界の大ベテランであり、日本ペンクラブの会員。その近藤氏が常づね使う言葉は“臨場感”。要するに、現場感覚を大切に、ということである。筆者もかつては新聞記者で、「記事は足で稼げ、現場を踏め」と、さんざん叩き込まれたものだ。

前置きが長くなったが、ここで紹介する2冊の本は、ジャーナリストが世界中を駆け巡り、書いた力作。最近発売された。今回休載の「提言」に代わりにはなりえないが、旅行の薦め、現場主義の推奨とも受け止めていただきたい。

【フラット化する世界】

筆者のトーマス・フリードマン氏は、ジャーナリスト界の最高峰ともいえるピューリッツァー賞に3度も輝いたニューヨークタイムズの記者。

まず、インドのバンガロールという街を描いている。ここには、アメリカに留学した人が多く住んでおり、情報機器、インターネットの発達によって、距離や時差を越えて、アメリカの多くの業界の仕事を安く引き受けている実態が克明に記されている。

例を挙げよう。アメリカの子供の家庭教師も、オンラインで結ばれたインド人がする、レントゲン写真やカルテをメールで送れば、次の朝には診断結果が戻っている、イラク上空を飛ぶアメリカの無人偵察機の操縦もバンガロールで、といった具合だ。

ベルリンの壁が崩れ、ソ連が崩壊してロシアとなり、中国の経済が資本主義化していく、そんな中で情報機器の発達によって、世界の国境が実態的な

くなり、時差も超えて、世界が一つの国のようになりつつある、つまり「フラット化」しつつある、という現状をレポート風に描いた、上下2冊の大作。

【中国がアメリカを超える日】

「あなたは今の中国を、どのくらい知っていますか」。筆者のテッド・C・フィッシュマン氏は、問いかける。彼も、ジャーナリストで、中国各地を丹念に歩いて、この本を書いた。

25年前には7万人だった深圳（しんせん）の人口は、いまや700万人。文化大革命で失脚しながら復活した鄧小平が「白いネコでも黒いネコでも、ネズミを捕るネコが、いいネコだ」といって、深圳を中国最初の経済特区に指定したことで急発展が始まり、中国全土の大躍進に繋がった。

その中国、陰の部分もある。“海賊版国家”と揶揄され、パテント料も払わずに時計、パソコンあらゆるモノを安く生産して、輸出大国になっている。賃金の安さも大躍進の秘密の一つ。そんな中国に対してアメリカの若者は勉強しない。

いずれは、中国がアメリカを追い越す。そんな姿が見えてくるようなルポである。

（JN協会理事・編集長 加納 隆）



寺前理事執筆の「NPOから提言します」は、今月号休載となります。次回以降、随時掲載とさせていただきます。

オレゴン州のワイン

アメリカ産のワインというと、どうしてもカリフォルニア、なかでもナパやソノマ・バレーのワインが有名です。ですが、このところ値上がりをしており、良く知られたオーパス・ワンなどは、本当に「目玉が飛び出る」ほどの高価なワインになってしまいました。

そこで最近、アメリカでも人気が出てきており、また私自身も口にすることが多くなってきたのがオレゴン産のワインです。

オレゴン州は、アメリカ大陸西海岸の、カリフォルニア州とワシントン州に挟まれた州です。かつてアメリカ大陸を西へ西へと開拓していった人々の辿った道、オレゴン・トレイルや日本ではテレビドラマのロケ地としても良く知られています。映画「スタンド・バイ・ミー」のロケ地もオレゴン州ユージーンです。

太平洋沿いの地域から美しい山の景色、さらに砂漠まで変化に富んだ地形とその気候上の特徴が果物や様々な食材を産し、オレゴン州を「クリナリー・ステイト〔食の州〕」と名づけるにふさわしくしています。



ワイナリーが沢山あるのはコースト山脈とカスケード山脈に挟まれたウィラメット・バレーと呼ばれる地域です。どこのワイナリーも決して大規模なものではなく、それだけに丁寧

に、高品質のワインが生産されていると言われます。

私の好みはピノ・ノアール。是非お試し下さい。州最大の都市、ポートランドには日本から直行便も運航されています。（JN会員 井上 嘉世子）

仲冬の景色

日めくりカレンダーも残り少なく、薄くなってきた。今年も残すところ約一ヵ月である。気圧配置も西高東低の冬型が現われ、日本海側で低い雲が垂れ込めて時雨模様。太平洋側は、空は青いが空気はカラカラ。乾いた冷たい北の風が吹き抜ける街には、クリスマスの赤や青のイルミネーションが光り、帰りを急ぐ人々の背中が丸い。

暦に季節の移り変わりを刻んできた二十四節気（せっき）も大雪（雪が大いに降り積もる頃で冬將軍の到来を感じさせる季節）と冬至（一年中で最も夜の長い日）を残すだけとなった。今年最後の二十四節気は、十二月二十二日の冬至で短日長夜の極点となる。この日から日脚が少しずつ伸びていく。

昔の人は「冬至から米一粒ずつ長くなる」といった。また、「冬至・冬なか・冬はじめ」といって、太陽の光から見た冬は折り返し点に到着したが、気温から見る冬はこれから寒さの本番となる。しかし、十二月の異称は、梅初月（ばいしよづき）

や春待月（はるまちづき）と呼ばれているように明るく暖かな春への期待が込められた月である。

周りの景色が次第にグレーに染まる中で、庭先でひととき華やかな彩りを見せているのがサザンカ（山茶花）である。また、散歩道には、ハコベ・ノボロギクなどが可憐で小さな花を咲かせているのに驚く。つい最近まで野原で寂しげに鳴いていたコオロギもいつのまにか姿を消して、暖かな春を待つ昆虫たちの静かな眠りの姿も見える。モンシロチョウのサナギ・ミノムシの名で呼ばれるオオミノガもすっかり葉を落とした木々で冷たい風に揺られている。



この時期は、普段目立たない小さな花たちの世界があり、厳しい冬に立ち向かう昆虫たちの生きるひたむきな姿が見える。

気象協会 千葉善明

会員名簿

個人名簿は公表していません

- 名誉顧問** : 松山善三(映画監督)
理事長 : 松尾道彦(日本海事財団会長、前日本鉄道建設公団総裁)
顧問 : 丹羽晟(前理事長、日本空港ビルデング相談役)
副理事長 : 白澤照雄(JN協会事務局長)、岡村進(小田急電鉄嘱託)、橋元雅司(元国鉄副総裁)、大島慎子(筑波学院大学教授)、小竹直隆(元JTB専務)、須田寛(東海旅客鉄道相談役)、横山善太(株JALUX特別顧問)
支部長 : 片山文彦(新宿支部)、水野卓哉(北陸支部)、田久保万里夫(立教支部)、長尾亜夫(九州支部)、須田寛(中部支部)、岩田弘三(神戸支部)、坂本眞一(北海道支部)、梅原利之(四国支部)

【団体会員】(2006年11月25日現在)

(株)朝日ネット、(株)アドバン、荒井建設(株)、アンデス電気(株)、安藤建設(株)、池田煖房工業(株)、(株)伊勢丹、射水市(富山県)、(株)井六園ワールド、岩田建設(株)、(株)エスシー・マシーナリ、(株)HKIアクシス、(株)大林組、隠岐の島町(島根県)、(株)奥村組、小田急建設(株)、小田急電鉄(株)、(株)小田急トラベル、鹿島建設(株)、鹿島道路(株)東京支店、大阪国際空港ターミナル(株)、(株)大塚ババレッジ、関西電力(株)、九城企業(株)、(株)九電工東京支店、九州電力(株)、九州旅客鉄道(株)、(株)熊谷組、(株)グリーンキャブ、群馬県、京浜急行電鉄(株)、(株)耕人舎、国光施設工業(株)、佐川アドバンス(株)、三協立山アルミ(株)、(株)三普旅行社、四国電力(株)、四国旅客鉄道(JR四国)(株)、清水建設(株)、(株)ジャールセールズ、(株)JAL-DFS、(株)JALUX、(株)JTB、(株)ジェイアール貨物・リサーチセンター、消音技研(株)、新菱冷熱工業(株)、常磐興産ピーシー(株)、住友電設(株)、(有)西洋館センター、静和堂竹内印刷(株)、(株)銭高組、全日本空輸(株)、パーキングプロ(株)、セントラルリーシングシステム(株)、(株)ダイエーコンサルタンツ、第一交通産業(株)、第一資材(株)、(株)大気社、大興物産(株)東京支店、大成建設(株)、大成サービス(株)、大成設備(株)、大成ユーレック(株)、大鉄工業(株)北陸支店、大日産業(株)、(株)高尚、高砂熱学工業(株)、(株)竹中工務店、(株)丹青社、中部電力(株)、ティーシートレーディング(株)東京支店、電研工業(株)、東海旅客鉄道(株)、東急建設(株)、東京急行電鉄(株)、東京国立博物館、(財)東京観光財団、東京電力(株)、東光電気工事(株)、東芝エレベータ(株)、東北電力(株)、トーヨーカネツソリューションズ(株)、戸田建設(株)、名古屋鉄道(株)、西日本鉄道(株)、西日本旅客鉄道(株)、(株)西原衛生工業所、西松建設(株)、日墨ホテル投資(株)、日本オーチス・エレベータ(株)、(株)日本海コンサルタント、日本空港ビルデング(株)、(株)日本航空インターナショナル、(財)日本交通文化協会、(社)日本添乗サービス協会、(株)日本プラント建設、ネスレージャングループ、箱根町(神奈川県)、箱根建設(株)、東日本旅客鉄道(株)、(株)日立ビルシステム、(株)日立製作所、(株)ビッグウイング福岡空港ビルディング(株)、(株)フェイクデリックホールディングス、(株)フィールドサービス、富士機材(株)、藤長電気(株)、富士通(株)プラネットワークス(株)、北海道旅客鉄道(株)、北海道電力(株)、北陸電力(株)、北海道空港(株)、(株)ホテル小田急、(株)ホテルメトロポリタン、前田建設工業(株)、(株)ホテルマリックス、マイナミホールディングス(株)、三井住友建設(株)東京建築支店、三菱電機(株)、(株)ミルックス、(学)森谷学園、(株)山武ビルシステムカンパニー、有楽土地(株)、(株)USEN、横浜貨物総合(株)、横浜ビル建材(株)、(株)ランゲージネット、菱重輸送機エンジニアリング(株)、りんかい日産建設(株)

特定非営利活動法人(NPO)

人と都市・観光の地球時代を、市民が支えます！

JAPAN NOW
観光情報協会

東京都渋谷区代々木1-58-13

小田急代々木ビル3F

電話 03(5304)9500

FAX 03(5304)5632

E-mail info@japannow.org

Home page http://www.japannow.org

発行人：白澤照雄(JN協会事務局長)

編集長：加納 隆(JN協会理事)

発行部数：3000部 主な配布先：会員、中央官庁、地方自治体、民間企業、マスコミなど

編集後記

2回目の札幌フォーラムの前夜、偶然にも釧路市長・伊東良孝さんの歌を聴く機会があった。水森かおりのヒット曲『釧路湿原』と『鳥取砂丘』、熱唱である。ちなみに、鳥取市と釧路市は姉妹都市だそう。釧路市は、伊東市長の発議で全国でも珍しい「市長の任期は三期まで」という条例を作っている。「市長を辞めたら、シルバー歌手で売り出せますよ」と言うと、破顔一笑。

その翌日、札幌市長の上田文雄さんにインタビューした。上田市長もカラオケの達人、CDも出している。「どっちが上手？」と聞くと、「それは、私」。カラオケもできる庶民感覚が、両市長の人気の秘密かもしれない。いつか、両雄の歌唱対決をみたい。(加納)